

宇都宮共和大学子ども生活学部の教育内容と特色 —子どもの発達・教育・子育て支援を学ぶ—

1. 教育課程の特色（学位：学士（子ども生活学））

（1）4年制大学として、幅広い教養教育に注力

子ども生活学部では、4年制大学として幅広い教養教育に力を注いでいます。「全人教育（人間形成の教育）」の建学の精神に基づいて、基幹科目「現代の教養講座」や社会的存在としての子どもの生活を理解し、より深い洞察ができる「基礎教育科目」、保育の実践力や専門性を高める「専門教育科目」などを通して、4年間でじっくり「人間存在への深い知識と洞察力を育てる」ことを目指しています。

（2）就職に強いカリキュラムとキャリア支援

子どもや保育に関心のある学生に対して、保育士資格、幼稚園教諭一種免許状を全員が取得できるカリキュラムとなっており、キャリア教育は1年生から始まります。

保育職就職に強いことはその実績から明らかですが、子育て支援の仕事や、子どもに関する相談機関、子ども関連企業（おもちゃ、アパレル、食品、出版、スポーツ、サービス関連）等への道を開く、多様なカリキュラムと充実したキャリア支援を用意しています。

（3）子どもの生活と育ちを支える専門性と人間性を備えた人材の育成

子ども生活学部では、6つの履修コースを設定しています。

また、各年次の教育目標と学生の学びと育ちを具体的に示すことで、学生自身が明確な目標とイメージを持ち、「人間性」「社会性」「生活力」「使命感」「責任感」「子ども理解」「保育構想力」「保育実践力」などを身につけ、専門性と人間性を備えた保育者・社会人として有為な人材となれるように学修を進めます。

[子ども生活学部で育てる人材]

1. 子どもと共に生活を創る人として、全人教育の理念に立ち、子どもの生活や文化の理解及び基礎教養としての生活学の知識と技能を修得する。
2. 地域の有用な人材として、将来の生活や関わる問題の横断的理解を深め、課題を探索し、新たにデザインできる資質を育成する。
3. 保育者として、子どもを取り巻く家庭・地域・社会環境にも視野を広げ、子どもの成長・発達や子育て支援、地域支援のための専門的知識・技能を修得する。
4. 子どもに関する専門職として、得意な分野の専門性を深め、子どもの生活を豊かに想像するための実践力と省察力を育成する。

[子ども生活学部の6つの履修コース]

1. 子ども心理コース ～心理人間関係・発達心理～
2. 子ども音楽コース ～リトミック・音楽療法～
3. 子ども自然コース ～レクリエーション・野外・自然～
4. 子育て支援コース ～子育て支援・障害児保育～
5. 子どもグローバルコース ～グローバル・コミュニケーション～
6. 幼稚園・小学校教諭コース ～幼稚園教諭・小学校教諭～

[取得できる免許・資格]

○幼稚園教諭一種免許状・保育士

○夢をかなえるプラスの資格

准学校心理士・リトミック指導資格（1・2級）・音楽療法士2種
レクリエーションインストラクター・キャンプインストラクター
社会福祉主事任用資格

○星槎大学と提携により通信課程利用して取得

小学校教諭一種免許状・特別支援学校一種免許状・AS（自閉症スペクトラム）サポーター資格・支援教育専門士資格

(4) 充実した教授陣と専門教育科目

子ども生活学部は、幼稚園園長、副園長など教育・保育現場、子育て支援・心理職などの経験者・専門職者であったベテラン教員や、子ども関係の研究・教育にたずさわってきた優れた教員など、教授陣が大変充実していることが特徴です。専門科目の教育内容は、現場に即しており、就職後すぐに役立つ具体的な授業です。幼児体育、リトミック、図画工作などの授業は特に、学生の興味と関心に応じています。また、短大音楽科の教員との連携も強く、音楽教育の環境にも優れ、ピアノ初心者も弾き歌いの確かな力をつけています。

2. 子ども生活学部卒業生の進路

(1) 長年の実績が豊富で地元就職に有利

これまで就職率は高い実績を有し、県内の幼稚園、認定こども園、保育所（園）、児童福祉施設、企業等に100%就職しています。また、2020年度は鹿沼市に一般職として、栃木市保育所に保育士として、2021年度は宇都宮市保育所に保育士として採用されました。

(2) 旺盛な求人が続く保育就職市場

県内の幼稚園、認定こども園、保育所（園）の中には、4年制大学卒を採用する園が増えていきます。待機児童解消のため、認定こども園や保育所（園）が増設されており、県内・首都圏では質の高い保育士の需要は極めて旺盛な状況です。幼稚園教諭一種免許状が取得できるので、幼稚園園長、認定こども園園長などの管理者、経営者への資質を身に付けることができます。

短大を卒業した後、幼稚園教諭一種免許状取得やリトミック指導員の資格を得るために、編入をしてくる学生もいます。

3. 活発な学生生活、サークル活動

学生が自主的に運営するサークル活動のほか、保育に関係するボランティア活動が活発です。子育て支援研究センターの事業（次記4）に参加して子どもと触れ合い体験し、保育を学んでいます。また宇都宮市オリオンスクエア内「ゆうあい広場（こどもの遊び場）」での幼児及び小学生を対象とした工作教室のボランティアに継続的に参加したり、各地の子育て広場や幼稚園・認定こども園・保育所（園）等の夏祭りのボランティアなど、県内各地での活動に参加する学生がたくさんいます。在学中から子どもとのかかわりを持つ環境があり、体験的に子どもとのかかわりや保育を学ぶ機会を多く持つことができます。



UST（ダンス）



ソーラン節



ラクロス（新設）



Free Music

4. 子育て支援研究センターの社会貢献活動

①「公開講座」として、2022年度は、「乳幼児期の保育の質の重要性」をテーマに開催します。1回目は「あそぼうの力」2回目は、「脳の発達を聞いてみよう」を準備しています。乳幼児をもつ受講生の為に、講座中は学内の保育実習室を活用して託児を行っています。



汐見 和恵氏（家族保育デザイン研究所）



小川 清美氏（大妻女子大学家政学部教授）

②「地域の就学前施設との交流」を授業に位置づけ、学生は子ども達との触れ合いを通して遊びや保育を体験し、学びを深めています。市内の幼稚園の園児と一緒に学内の広い芝生のグラウンドで走り回ったり、子どもの森では動植物を観察したり、アリーナでは運動遊びやその他多くの遊びを楽しんでいます。



③「障がいのある子どもと家族の支援（TINY）」は、障がいのある子どもと家族を応援する活動で、定期的実施しています。多くの学生や卒業生がボランティアで参加し、親・子・学生・教員が共に育ちあう実践活動の場となっています。2021年度には、その功績が認められ、「宇都宮市民憲章賞」を受賞しました。



- ④「親子遊びの会」は、就学前の乳幼児を持つ親同士のネットワーク作りや子ども同士の遊びの広がりを目指し、学生の学びの場となっています。2019年度大学コンソーシアムとちぎ「学生・企業研究発表会」で、金賞を受賞しました。2021年度秋からは地域の企業（栃木トヨタと連携し、地域コミュニティ施設（ミナテラスとちぎ）において毎月、子育て支援のイベントを実施しています。



- ⑤「バーベナ（自然遊びの会）」は、学生が中心になって学内にある森の整備から始めて、子どもたちと森を探検し自然に触れて遊ぶ経験を積んでいます。県の学生支援事業や宇都宮市「みやの環境創造提案実践事業」に採択されています。



- ⑥「リカレント教育」として、卒業生を対象にした支援活動を展開し、卒業生と教員との交流を通して、学び合いの場となっています。



子ども生活学部の社会貢献活動は、子育て支援研究センターの「研究センター年報」に公表しています。